

せいかつ

子ども

終活講座

最新葬儀事情

ここ数年、少子高齢化を背景に札幌など都市部で「家族葬」が定着してきた。家族葬のはっきりした定義はないが、会葬者は数人から数十人で家族、親族らで執り行う葬儀だ。

札幌市白石区の葬儀社、セレモニーきょうどうは、10年前の2004年に家族葬専用の斎場を建てた。現在は祭壇のあるホールが一つで会葬者は30人程度の広さだ。10年前に「家族葬」の看板を掲げた斎場は道内

①都市部で増える家族葬 少子高齢、変わる意識

でも珍しかった。社長の鈴木全明さん(66)は「当時はマツチ箱みみたいな斎場とまで言われましたが、少子高齢化の流れで小型葬の志向が強まることは当初から確信していました」と語る。家族葬に対し、

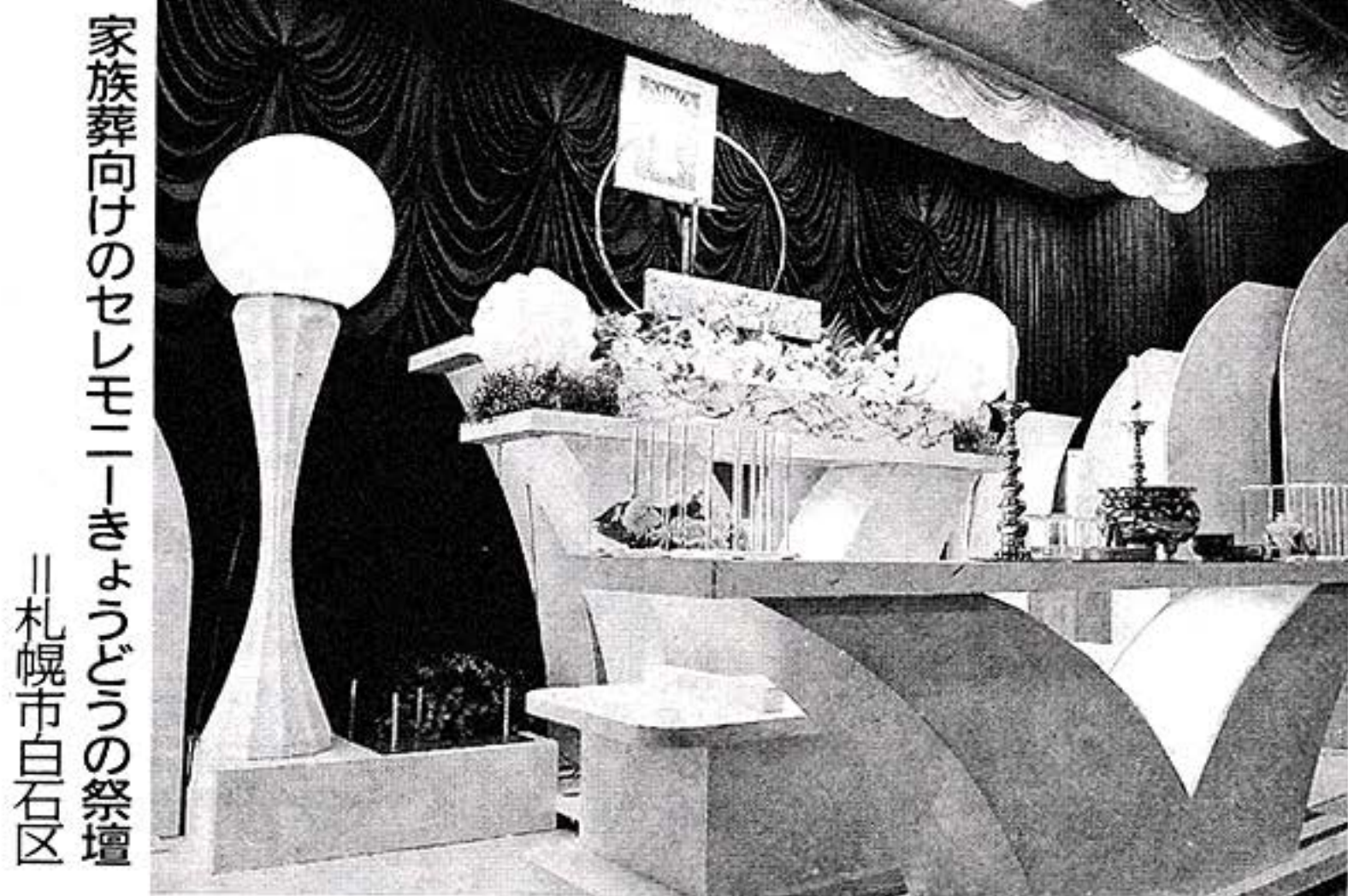
親族ら以外の会葬者にも来てもらう従来型の葬儀を「一般葬」と呼ぶこともあるが、鈴木さんは「札幌など都市部では、家族葬がごく普通の葬儀になりましたね」と指摘する。

小型の葬儀には「密葬」

というスタイルがあるが、これは家族葬とはやや違う。密葬は最初に家族らごく内輪だけで葬儀を済ませ、後に一般の会葬者で「本葬」を行うことが多い。家族葬は、家族葬だけで完結する。

家族葬が普及したのは、「人を呼んで付き合いたいなどわずらわしいことをしたくない。香典が集まらなくてもいい」「見えを張りたくない、張る必要はない」といった意識が浸透したことが指摘されている。長く経済の低迷が続き、葬儀の低価格化も進んだ。

最近では「直葬」といって火葬だけで通夜、葬儀をまったくしないか、僧侶の読経などでごく簡単に済ませる低価格のスタイルも札幌などで広がり始めた。



家族葬向けのセレモニーきょうどうの祭壇

札幌市白石区

(編集委員 福田淳一)